

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 4 月 16 日 (2020.4.16)

【公開番号】特開 2019-183468 (P2019-183468A)

【公開日】令和 1 年 10 月 24 日 (2019.10.24)

【年通号数】公開・登録公報 2019-043

【出願番号】特願 2018-73939 (P2018-73939)

【国際特許分類】

E 0 4 C 5/18 (2006.01)

【F I】

E 0 4 C 5/18 1 0 2

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 3 月 5 日 (2020.3.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長手方向に対向する一対の鉄筋の端部を相互に接続する鉄筋継手であって、
内面に雌ねじ部が形成された筒状体と

一端部に継手雄ねじ部を有する継手部材と、

対向する一対の継手部材同士を長手方向およびその直交方向に変位可能に接続する接続
部材とを備え、

前記筒状体の一端部に一方の前記鉄筋の端部に形成された鉄筋雄ねじ部が螺合され、他
端部に前記継手部材の一端部の前記継手雄ねじ部が螺合される鉄筋継手。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の鉄筋継手において、前記継手部材は本体部と前記継手雄ねじ部とを有
し、前記一対の継手部材の本体同士が長手方向に対向した状態で前記接続部材と前記継手
部材とが締結部材によって着脱自在に連結されている鉄筋継手。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の鉄筋継手において、前記一対の接続部材の間に前記継手部材の本体部
が介在している鉄筋継手。

【請求項 4】

複数本の鉄筋が平行に配筋され、あばら筋で結合された鉄筋組み立て体であって、
前記鉄筋の端部に形成された雄ねじ部に、内面に雌ねじ部を有する筒状体が螺合されて、
前記鉄筋雄ねじ部が前記雌ねじ部の軸方向内側部分に侵入し、前記雌ねじ部の軸方向外側
部分が外部に露出している鉄筋組立体。

【請求項 5】

請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の鉄筋継手を備え、鉄筋継手における前記筒状体と
前記鉄筋がコンクリートに埋め込まれ、前記筒状体の外端面の雌ねじ部が前記コンクリ
ートの端面から露出しているプレキャスト鉄筋コンクリート体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 0 】

ここで、前記筒状体 1 0 は外形が横断面六角形で、その内面に鉄筋 1 の端部の鉄筋雄ねじ部 1 5 に螺合される雌ねじ部 1 4 が形成されている。筒状体 1 0 は、外形が横断面円形または多角形でもよい。鉄筋雄ねじ部 1 5 は、筒状体 1 0 の雌ねじ部 1 4 の一部分である軸方向内側部分にのみ螺合される。前記継手部材 1 1 は、図 3 に示すように、偏平な形状の本体部 1 2 と、その先端の筒状体 1 0 の雌ねじ部 1 4 に螺合される継手雄ねじ部 1 3 とを備える。本体部 1 2 には 3 つの貫通孔 1 7 が所定の間隔（例えば 6 0 m m）で形成されている。前記貫通孔 1 7 の数は、この例では 3 つとしたが、2 つでも 4 つ以上でもよい。また、この貫通孔 1 7 は、後述する高力ボルトまたは超高力ボルト（以下、単に「ボルト」という場合がある。）2 5 の外径より数 m m 大きい内径を有する遊嵌孔（過大孔）となっており、その両端の縁部に環状の突起または面取りからなる摩擦調整部 1 7 a が形成されている。これにより、大きな力でボルト 2 5 を締め付けたときに、突起が押し潰されるか、または面取りの凹みに前記接続部材 1 9 の一部分が入り込み、摩擦力が増して、力の伝達効力が高まる。

【 手 続 補 正 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 3 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 3 4 】

以上のとおり、図面を参照しながら好適な実施形態を説明したが、この発明の趣旨を逸脱しない範囲で、種々の追加、変更または削除が可能である。したがって、そのようなものもこの発明の範囲内に含まれる。